

検査内容変更のお知らせ

謹啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、このたび下記項目につきまして、検査内容を変更させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。
先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

- ▶ 1, 5-AG(1, 5-アンヒドログルシトール)
- ▶ アミラーゼアイソザイム(AMY) - 血清
- ▶ アミラーゼアイソザイム(AMY) - 尿
- ▶ 可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)
- ▶ 免疫電気泳動 特異抗血清
- ▶ 血清中ベンスジョーンズ蛋白同定
- ▶ 尿中ベンスジョーンズ蛋白同定

変更日:2018年3月30日(金)受付分より

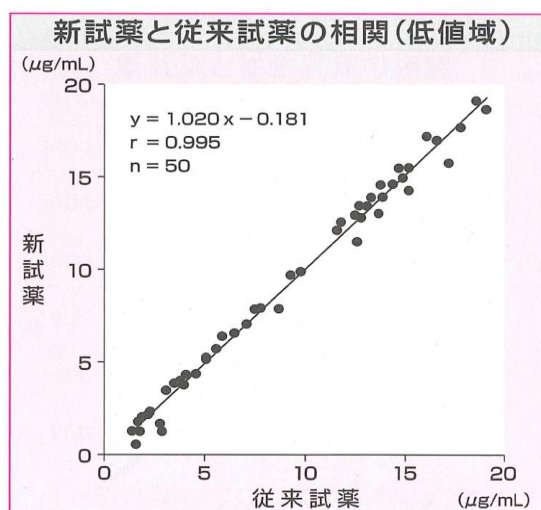
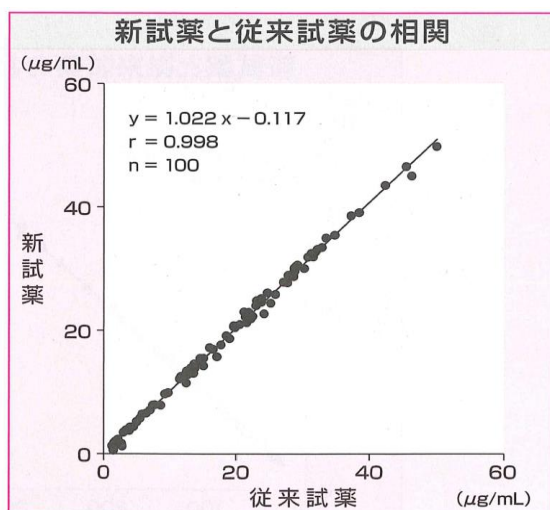
裏面に続きます。

▶ 1, 5-AG(1, 5-アンヒドログルシトール)

測定精度の向上を期し、測定試薬を変更させていただきます。

なお、この変更に伴い、基準値を変更させていただきます。

	新	従来
検査材料	血清	同左
検体必要量	0.5mL	同左
所要日数	3~4日	同左
検査方法	比色法	同左
基準値	14.0以上	14.0~46.0
報告単位	$\mu\text{g/mL}$	同左



BML検討資料

【検査方法の参考文献】

山内俊一: 日本臨床 53, 553-556, 1995.

◆ 可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)

項目の統合、および精度向上のため測定試薬を変更させていただきます。

なお、この変更に伴い、検査方法、基準値、報告範囲を変更させていただきます。

	新	従来
検査材料	血漿(クエン酸Na)	同左
検体必要量	0.3mL	同左
所要日数	3～6日	同左
検査方法	ラテックス凝集法	凝集反応
基準値	濃度：7.0未満 判定：(-)	(-)
報告単位	濃度：μg/mL 判定：なし	なし
報告範囲	濃度：7.0未満～100.0以上 判定：(-)、(+)	(-)、(+)

◇新規項目と現行項目の一致率表

		現行		
		+	-	合計
新	+	27	78	105
	-	0	51	51
合計		27	129	156

陽性一致率 100.0%

陰性一致率 39.5%

判定一致率 50.0%

BML検討資料

【検査方法の参考文献】

細田雅子, 他: 日本検査血液学会雑誌 10, 202-210, 2009.

免疫電気泳動 特異抗血清

所要日数短縮、および感度に優れた方法への統合化のため検査方法を変更させていただきます。
なお、この変更に伴い、検体必要量、所要日数、検査方法を変更させていただきます。

	新	従来
検査材料	血清	同左
検体必要量	0.5mL	0.3mL
所要日数	4～7日	6～10日
検査方法	免疫固定電気泳動法 (IFE法)	寒天ゲル免疫電気泳動法
基準値	検出せず	同左
備考	泳動像と(陽性時)M蛋白型を別紙にてご報告いたします	同左

血清中ベンスジョーンズ蛋白同定

所要日数短縮、および感度に優れた方法への統合化のため検査方法を変更させていただきます。
なお、この変更に伴い、検体必要量、所要日数、検査方法を変更させていただきます。

	新	従来
検査材料	血清	同左
検体必要量	0.5mL	0.3mL
所要日数	4～7日	6～10日
検査方法	免疫固定電気泳動法 (IFE法)	寒天ゲル免疫電気泳動法
基準値	検出せず	同左
備考	泳動像と(陽性時)M蛋白型を別紙にてご報告いたします	同左

尿中ベンスジョーンズ蛋白同定

所要日数短縮、および感度に優れた方法への統合化のため検査方法を変更させていただきます。
なお、この変更に伴い、検体必要量、所要日数、検査方法を変更させていただきます。

	新	従来
検査材料	尿	同左
検体必要量	2.0mL	5.0mL
所要日数	4～7日	6～10日
検査方法	免疫固定電気泳動法 (IFE法)	電気泳動法
基準値	検出せず	同左
備考	泳動像と(陽性時)M蛋白型を別紙にてご報告いたします	同左

【検査方法の参考文献】

山田俊幸: 臨床検査 58, 1569-1578, 2014.